

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ビックショット	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.499	△RG	0.050	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：アクション・ナノフレックス

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

箱出し状態

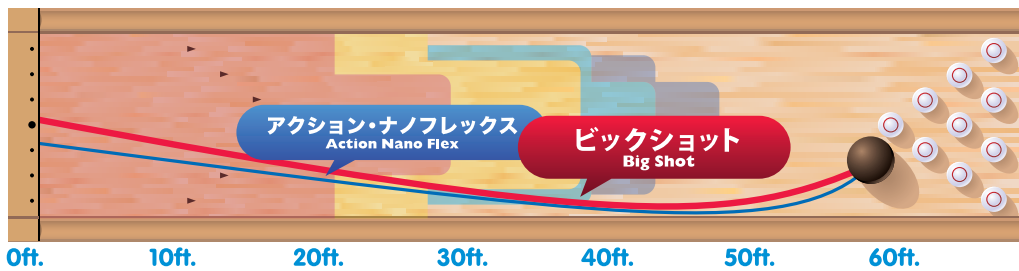
加工

ペーパー

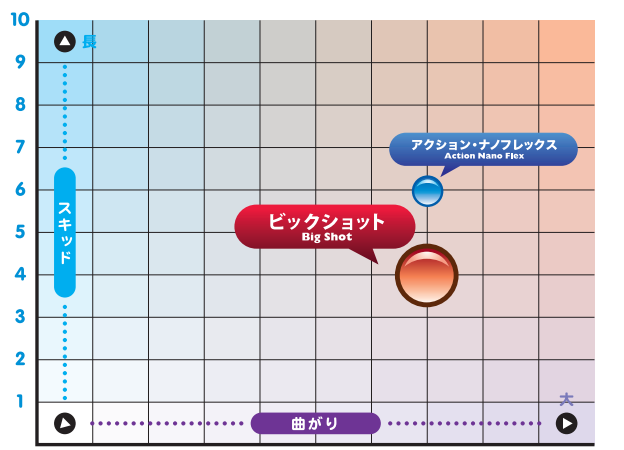
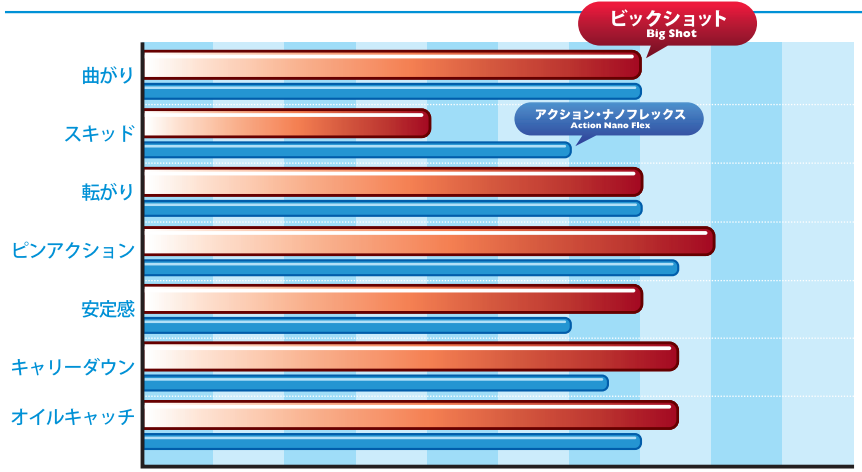
ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

このビックショットはアクションアタックでも使用した Centrifuge コアを採用し、カバーストックには Optima という新しいカバーストックを搭載しています。またコロンビア独自の TSC (Texture Control System) という表面加工も見逃せません。投球した感じは TSC 加工独自のものが、**手前からの動きを強く感じる性能で、厚いオイル上を咬みながら進んでいるようにも感じました。これぐらいのキャッチ力を感じてしまうと、手前のオイルが少ない場合には手前で動力は失いバックエンドで動きがボケた感じになります。逆の表現をすればそれだけオイル量があるときや感じる時に使用できるボールとも言えるでしょう。** 箱出しのままのリアクション特性はストロングなアーク状。ポリッシュ加工ならばアクションアタック同様、先での動きを強調できるシャープ感を得られます。全体的にオイルが多いときに使用するならば箱出しのまま、バックエンドで動きを強調させたい場合にはポリッシュ加工を施し、各々ボウラーのタイプにより選択するのが良いでしょう。ピンアクションは重量感の中にも柔らかさを感じますので、このボールはあなたにとってのまさに「ビックショット」となるでしょう。

特記事項

このボールがマッチする私が推奨するボウラータイプは、アウトサイドを主に使用する方。このボールは板目を多く使うより使わないほうがマッチします。後はピンアクション勝負です。